



報道関係者各位

令和7年11月12日
独立行政法人国立科学博物館

企画展「ワニ」 開催及び報道内覧会実施のお知らせ

国立科学博物館（館長：篠田 謙一）は、2025（令和7）年11月26日（水）から2026（令和8）年3月1日（日）までの期間、下記のとおり、企画展「ワニ」を開催いたします。

また、本展の開幕に先立ち **11月25日（火）15時から16時30分の間**、別添のとおり報道内覧会を実施いたしますので、併せてご案内申し上げます。

太古の昔から姿をほとんど変えず、水辺に暮らしてきたワニ。
爬虫類の中でもひととき強い存在感を放っています。

本展では、世界のワニの多様な姿や生態を、剥製や骨格標本、映像などを通して紹介するとともに、古文書に残る記録から人とワニとの関わりの歴史をひもときます。

長い間“水辺の隣人”として人類と共に生きてきたワニの姿から、私たちと野生動物とのこれからの関係を見つめます。

本展の広報に関して、特段のご支援・ご協力を賜りたくお願いいたします。



セベクワニ
（所蔵：国立科学博物館）

記

【企画展名称】企画展「ワニ」

【開催場所】国立科学博物館（東京・上野公園）

日本館1階 企画展示室及び中央ホール

【開催期間】2025（令和7）年11月26日（水）～2026（令和8）年3月1日（日）

【開館時間】9時～17時

※入館は閉館時刻の30分前まで

【休館日】月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）、12月28日（日）～1月1日（木・祝）

※1月12日（月・祝）、2月16日（月）、2月23日（月・祝）は開館

【入館料】一般・大学生：630円（団体510円）、高校生以下及び65歳以上：無料

※本展は常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上

※入館方法の詳細等については、当館ホームページをご覧ください

<https://www.kahaku.go.jp/>

【主催】国立科学博物館

【特別協力】熱川バナナワニ園

【展示概要】別添の本展チラシ参照

【お問合せ】国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL：03-5814-9887 FAX：03-5814-9898 E-mail：kikakuten@kahaku.go.jp

報道関係者各位

企画展「ワニ」
報道内覧会のお知らせ
2025(令和7)年11月25日(火)15時～／国立科学博物館

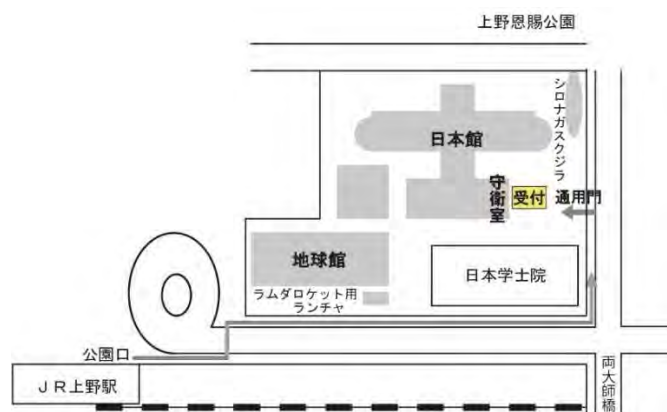
当日は、本展監修者による展示解説を行いますので、ぜひご参加いただき、記事として取り上げていただけますと幸甚です。

【日時】 2025(令和7)年11月25日(火)
15時～16時30分(受付開始 14時30分～)

【会場】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)
日本館1階 企画展示室及び中央ホール

【受付場所】 日本館1階守衛室前 ※下記地図の通り通用門からお入りください

【アクセス】 JR上野駅公園口から徒歩5分
東京メトロ銀座線・日比谷線上野駅7番出口から徒歩10分
京成電鉄京成上野駅から徒歩10分
※駐車場及び駐輪場の用意はございません



14 時 30 分～ 受付開始（受付場所：日本館 1 階守衛室前）
15 時～16 時 30 分 報道内覧会
※15 時から約 30 分間、本展の監修をした国立科学博物館の研究者が展示解説を行い、
皆様からのご質問にお答えします。

【お申込み方法】

報道内覧会に参加を希望される方は 11月21日(金)17時までに、以下必要事項を記載の上、国立科学博物館企画展担当 kikakuten@kahaku.go.jp あてメールにてお申込みください。

- ・ 件名：企画展「ワニ」報道内覧会申込
- ・ お名前
- ・ ご所属
- ・ 緊急連絡先(携帯電話番号)
- ・ メールアドレス

※代表者の方がまとめてお申込みをされる場合も、すべての参加希望者について、上記の必要事項をご記入願います。

上記アドレスより折り返しのメール連絡をもって受付完了とします（概ね3日以内にお返事します）。迷惑メールの設定などをされている場合は、受信できるようにご設定ください。

※いただいた個人情報は、報道内覧会以外の連絡には使用しません

厳重に管理し、報道内覧会終了後、1ヵ月以内に破棄いたします

【本展監修者】



国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ研究員

吉川 夏彦（よしかわ なつひこ）

専門はサンショウウオ類やカエル類を中心としたアジア産両生類の系統分類学、生物地理学、生態学。特に山地溪流性のハコネサンショウウオ属を中心に研究しています。館内では両生類以外にも、ワニやヘビ、カメなども含めた爬虫類まで幅広く担当しており、標本の収集や製作、維持管理にたずさわっています。



国立科学博物館 生命史研究部 進化古生物研究グループ研究主幹

對比地 孝亘（つひじ たかのぶ）

専門は化石分類群の骨学、現生種の筋肉系の解剖学を中心とした爬虫類の比較形態学。現生生物から得られる軟組織（筋肉、靱帯、血管系など）の情報と、化石に保存されている骨格形態の進化パターンを組み合わせることで、脊椎動物、とくに爬虫類における軟組織も含めた解剖学的な進化のシークエンスを明らかにすること、特に首の進化的変化に興味を持っています。

【外部監修者】



オーストラリア・ノーザンテリトリー政府職員、
国際自然保護連合・ワニ類専門家グループ オーストラリア地区副代表
福田雄介（ふくだ ゆうすけ）

二十歳のころにオーストラリアのノーザンテリトリーに移住して以来、イリエワニとジョンストンワニ（オーストラリアワニ）の研究に取り組んでいます。野生個体群調査や頭数モデリング、人間社会とのあつれきの防除や遺伝子解析などが専門です。大自然に暮らすワニの美しい姿を知ってもらうべく、さまざまな国で撮影活動もしています。新著の「クロコダイルに魅せられて」（みすず書房）、ほかワニ関係の著書多数。

【お問合せ・お申込み先】

国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

TEL:03-5814-9887 FAX:03-5814-9898 E-mail:kikakuten@kahaku.go.jp

広報用写真提供

広報用として写真をご用意しております。

国立科学博物館ホームページの「各種手続き・報道関係資料」→「写真の貸出」からお申込みできます。
(<https://www.kahaku.go.jp/procedure/rent/index.html>)



①企画展「ワニ」
ポスタービジュアル
(写真: 福田雄介)



②ワニの皮標本を調査する研究員



③セベクワニ
(所蔵: 国立科学博物館)



④アフリカクチナガワニ
(所蔵: 国立科学博物館)



⑤メガネカイマン
(所蔵: 国立科学博物館)



⑥マレーガビアル
(所蔵: 国立科学博物館)



⑦イリエワニ頭骨標本
(所蔵: 国立科学博物館)



⑧龍絵巻物(栗本丹洲)
(所蔵: 国立科学博物館)

【記事利用の際のお願い】

- * 写真使用は本展の紹介目的のみとさせていただきます。本展終了後の使用はできません。
- * 写真掲載時には、資料のクレジットを必ずご記載ください。
- * 記事のなかで、会期、入館料、開館時間などの基本情報をご掲載いただく場合は、確認のため、下記担当まで校正原稿をお送りください。
- * ご掲載いただいた場合は、掲載誌等をお送りくださいますようお願い申し上げます。

〈お問合せ先〉 国立科学博物館 展示部 企画展示課 企画展担当

電話 03-5814-9887 FAX 03-5814-9898

E-mail: kikakuten@kahaku.go.jp 〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

知るほど、ハマる。

企画展

ワニ

“Crocodylians”

Understanding Our Waterside Neighbors

2025 11.26  2026 3.1 

国立科学博物館 日本館1階企画展示室・中央ホール

会 期	2025年11月26日(水)～2026年3月1日(日)
開館時間	9時～17時 ※入館は閉館時刻の30分前まで
休 館 日	月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)、12月28日(日)～1月1日(木・祝) ※1月12日(月・祝)、2月16日(月)、2月23日(月・祝)は開館
入 館 料	一般・大学生630円(団体510円)※常設展示入館料のみでご覧いただけます ※団体は20名以上 ※高校生以下および65歳以上は無料
主 催	国立科学博物館
特別協力	熱川バナナワニ園
お問い合わせ	TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル) FAX 03-5814-9898 https://www.kahaku.go.jp/



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

企画展

ワニ

“Crocodylians”

Understanding Our Waterside Neighbors

0 ワニを調べる

形態や生態、進化の道のりなど、さまざまな切り口からワニを通して研究に取り組む人々がいます。国立科学博物館では、ワニを標本として保存し、研究や教育に役立てています。また、生息地に赴いて野生のワニを調査する研究者もいます。ここでは、そうしたワニ研究とそれを支える活動を紹介します。



ワニの皮標本を調査する研究員

現生のワニは、全長6メートルに達する大型種から2メートルに満たない小型種まで、体の大きさはさまざまです。しばしば獰猛な捕食者として語られますが、水生生物として高度に適応した体のしくみや、子育て・縄張りなどの社会的な行動にも注目すべき特徴をもっています。



クチヒロカイマンの孵化の様子(映像より)

イリエワニ頭骨標本



2 ワニという生きもの

4 ワニの現状と保全

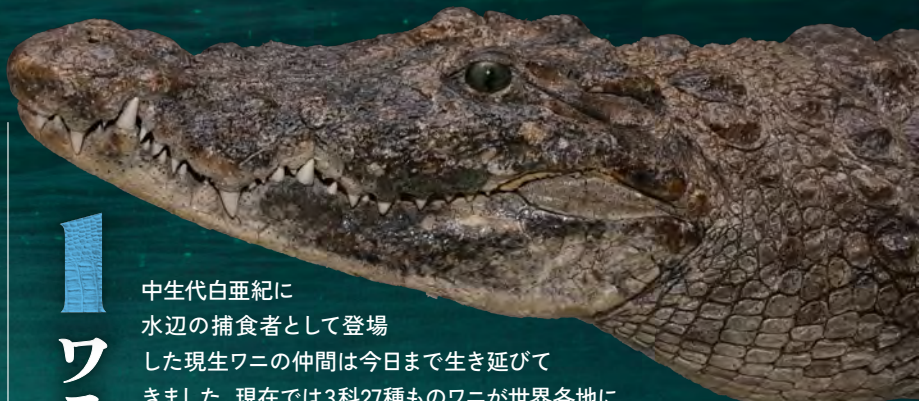
人の生活圏が広がるにつれ、ワニとのあいだに軋轢が生まれました。危険な存在として排除されたり、資源として乱獲されたり、生息地を奪われたりしたことにより、現在多くのワニが絶滅の危機にさらされています。現在の状況や共存の試みを通じて、ワニをはじめとした野生生物との共存の未来を考えます。



写真：福田雄介



太古の昔から姿をほとんど変えず、水辺に暮らしてきたワニ。爬虫類の中でもひととき強い存在感を放っています。本展では、世界のワニの多様な姿や生態を、剥製や骨格標本、映像などを通して紹介するとともに、古文書に残る記録から人とワニとの関わりの歴史をひもときます。長い間“水辺の隣人”として人類と共に生きてきたワニの姿から、私たちと野生動物とのこれからの関係を見つめます。



1 ワニがきた道

中生代白亜紀に水辺の捕食者として登場した現生ワニの仲間は今日まで生き延びてきました。現在では3科27種ものワニが世界各地に分布します。ここでは、初公開の標本も交えながら現生ワニの多様性とその歴史をたどります。

クロコダイル科
セベクワニ



クロコダイル科
アフリカケチナガワニ



アリゲーター科
メガネカイマン



ガビアル科
マレーガビアル

3 ワニと人

太古から地球に生きるワニたちは、やがて人と出会いました。力強く、ときに神秘的な存在として、人々はワニを畏れ、敬い、利用し、さまざまなかたちで関わってきました。化石として、あるいは伝説や信仰の中に、そして稀に現れる来訪者として、その姿は今も息づいています。人は、ワニとどのように向き合い、文化の中に取り入れてきたのでしょうか。



©雨宮ひかる



龍絵巻物(栗本丹洲)

JR	「上野駅」公園口から徒歩5分
東京メトロ 銀座線・日比谷線	「上野駅」7番出口から徒歩10分
京成電鉄	「京成上野駅」正面口から徒歩10分

※館内に駐車場および駐輪場はございません。

お問い合わせ

〒110-8718 東京都台東区上野公園7-20

TEL 050-5541-8600(ハローダイヤル)

FAX 03-5814-9898

<https://www.kahaku.go.jp/>

※詳細はホームページをご覧ください。

